

kokyoso tsushin

高教組通信 No.10

2013年1月10日
兵庫高教組書記局URL: <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail: honbu@hyogo-kokyoso.com

これほど不誠実な県教委を今後信頼できますか？

学区拡大問題

間に合わない中学の進路指導
不安が増すばかりの受検生

高教組は「新通学区に係る公立高等学校入学者選抜の改善について」(以下「改善」)について県教委交渉を行いました(1月8日)。県教委回答は以下に見る通り中学や高校、地域、そして何よりも受検生や保護者の願いや不安など全く考慮しないきわめて不誠実なものでした。私たちは、現在の中学1年生から計画されている学区拡大の下での高校入試の実施の凍結を強く求めるものです。

これだけの不誠実 ... これでは安心して高校受検はできません

県教委は、「改善」(昨年12月20日)は「入学者選抜制度」の変更であって「新学区」を定めた「基本方針」(2012年1月6日)の変更にはあたらないとの立場に終始しました。このような詭弁を弄したため下記の通り意味不明、理解不能の答弁に陥りました。最大の問題は、自らの責任回避のためにその犠牲をすべて受検生やその保護者、そして教職員に押しつけようとしていることです。

不誠実その1 ... 基本方針は変更していない

新通学区は、学年制の全日制普通科が対象でした。ところが何の事前説明もなく、単位制の全日制普通科及び総合学科を対象に加えたのです。その結果、対象校が95校から一気に115校に拡大しました。また、複数志願選抜制度も大幅に変更し現在とは事実上別の制度となりました。これでも基本方針は変更していないというのです。

不誠実その2 ... 「その他校希望」は残すとは言っていない

学区を拡大し「その他校希望」を残すと遠距離通学の不安が増大するとの理由で廃止しました。基本方針では「通学距離や時間を考慮した『その他校希望』制度となるよう、その在り方を見直す」としていたのです。「存続の方向で」とは書いていないのだから廃止しても問題ないというのです。「一定の点数があり、定員に空きがあれば合格できる制度」として宣伝してきた複数志願選抜制度の目玉政策をいとも簡単に廃止したのです。

不誠実その3 ... 第二希望は新たなセーフティネット？

第二志望に限り志願変更を認めるので、受検生は自分に見合った学力、家計、通学距離を考慮し空きがある高校を選べばよい。これが新たなセーフティネットだということです。

不誠実その4 ... 通学費補助は検討するとは言ったが非常に難しい

通学費補助については、県予算の関係で「非常に難しい」、検討するが「実現させる気持ちで」

とは言えないと回答。全くやる気はなく、県民向けの単なるリップサービスであったことが明らかになりました。

不誠実その5 ... すべての高校を選択できるわけではない

第2学区は34校が通学区の対象となり、県教委が示した適正規模20校を遙かに超えます。この指摘に対し「子どもが通えるのはこの中で何校かだから」と回答しました。そうであれば現行学区で何ら問題ありません。自ら学区拡大の必要性を否定したのです。

不誠実その6 ... 加算点を残すとは言えない

加算点の扱いについても「有識者会議の意見を聞いてから決める」と回答し、「その他校希望」同様突然廃止の可能性があることを示唆しました。しかもその発表は、入試の1年前までにはしたいとこれまたきわめて無責任な発言をしたのです。

不誠実その7 ... 8ページを超える説明パンフレットがないと説明できない

県教委は、昨年、現在の全中学1年生を対象に「お知らせ」を配布しました。文書の破棄と訂正の要求に対し、破棄することを拒否した上で8ページを超えるパンフ(今年3月までに作成)を用意し改めて説明すると回答しました。しかし、まだ肝心の加算点の扱いが決まっていな段階です。加算点の扱いが決定したら再び中三になった全受検生に改めて説明するつもりでしょうか。

不誠実その8 ... 机上の空論、但馬の18%

但馬の連携校方式では連携中学以外からの定員枠を18%としました。連携校方式導入時からの変遷や人数比を総合的に判断したとし、ますます少子化していく但馬において連携校外の%が小さければ、学校の存続ができなくなると説明しました。これは、学校存続のためではなく、進学校に生徒を集め地域の高校を統廃合に追い込む政策です。

不誠実その9 ... 詳細は受検生が中3になる前には発表したい

「改善」は県教委が自ら定め、県民への約束でもある「基本方針」すらも無視し、新たな高校入試制度を決めていくことを事実上宣言したものです。加算点の扱いも含め「方針なき暴走」が今後もくり返されることは明らかです。しかも、変更に変更を重ねた方針を高校入試1年前に発表しようというのです。信じがたい不誠実、無責任な対応です。このような県教委を誰が信頼、信用するでしょう。

学区拡大の問題点がいつそう鮮明に

高教組は、学区拡大は複数志願選抜制度が持つ矛盾を極限まで拡大すると指摘してきました。「その他校希望」の廃止は県教委がそのことを自ら認めたものです。そもそもこの矛盾は、現行学区を拡大する必要がないにもかかわらず競争の教育の強化のために学区を拡大しようとしたことから生まれたものです。

但馬地域の連携校方式も地域社会の教育を守るためにどのような学区・入試制度が必要かを検討すべきところを「机上の空論」政策で対応しようとし矛盾を拡大しているのです。

学区拡大の問題点がいつそう鮮明になりました。学区拡大は当面凍結すべきです。